

A.2 追加性に関する情報

投資回収年

投資回収年数	39.0	年
--------	------	---

A.3 排出削減量の算定方法

A.3.1 排出削減量

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	数値 ※3
ER	排出削減量	tCO2/年	111
EM_{BL}	ベースライン排出量 ※1	tCO2/年	177.0
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2/年	65.5

※1 A.3.5のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 A.3.3のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 A.3.2～A.3.5まで入力後、自動計算されます。

A.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

(1) ベースラインの付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。付随的な排出活動について、算定を行う場合には、A.3.5に算定方法を示すこと。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行わない
合計 ※2	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

(2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。

また、A. 3. 1で算定した排出削減量と比較して付随的排出活動の影響度を評価し、プロジェクト実施後の付随的排出活動のモニタリング・算定方法を定めること。
ただし、モニタリングを省略する複数の付随的な排出活動の影響度の合計を5%以上としてはならない(影響度の合計が5%未満となるようにモニタリングを省略する付随的な排出活動を調整しなければならない)。

方法論で定める付随的な排出量のうち、「バイオ液体燃料化処理設備の使用」及び「メタノールの使用」についてはモニタリングによる算定を行う。また、「バイオマス原料の運搬」及び「バイオ液体燃料の運搬」についてはBDF燃料を使用する車両において対応し、排出量は0となるため、算定を省略する。

排出活動	排出量(tCO2/年)	影響度(%) ※2	モニタリング・算定方法 ※3
バイオマス原料の運搬	0.0	0.0	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
バイオ液体燃料化処理設備の使用	32.9	29.6	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
メタノールの使用	32.6	29.4	<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
バイオ液体燃料の運搬	0.0	0.0	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
合計 ※4	65.5	59.0	

- ※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。
- ※2 A. 3. 1で算定した排出削減量(ER)に対する比率(%)を記載すること。
- ※3 方法論で規定された方法から選択すること。
- ※4 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

A.3.3 プロジェクト実施後排出量

注) 方法論の「3. 事業実施後排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

(考え方) ※1 バイオ液体燃料 (BDF) を使用するので、プロジェクト実施後の主要排出量は0 tCO2/年である。

$$EM_{PJ,M} = 0 \quad (\text{式 3})$$

記号	定義	単位	想定値
EM_{PJ}	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2/年	0.0

※1 方法論に記載された算定方法のうち、使用する算定方法を明記すること。

(2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(2)において、影響度が1%以上であった付随的な排出活動に全てについて記載する。

$$EM_{PJ,S} = EM_{PJ,S,transport,feedback} + EM_{PJ,S,process} + EM_{PJ,S,MeOH} + EM_{PJ,S,transport,BF} \quad (\text{式 4})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の付随的な排出量	tCO2/年	65.5
$EM_{PJ,S,process}$	バイオ液体燃料化処理設備の使用によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	32.9
$EM_{PJ,S,MeOH}$	メタノールの使用によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	32.6

$$EM_{PJ,S,process} = EL_{PJ,S,process} \times CEF_{electricity,t} \quad (\text{式9})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,process}$	バイオ液体燃料化処理設備の使用によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	32.9
$EL_{PJ,S,process}$	プロジェクト実施後のすべてのバイオ液体燃料化設備の使用における電力使用量	kWh/年	57,675
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	0.00057

$$EM_{PJ,S,MeOH} = MC_{PJ,S,MeOH} \times 12/32 \times 44/12 \quad (\text{式10})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S,MeOH}$	メタノールの使用によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	32.6
$MC_{PJ,S,MeOH}$	BDFの製造におけるメタノール使用量	t/年	23.7

A.3.4 ベースライン排出量の考え方

注) 方法論の「4. ベースライン排出量の考え方」を参照し、本プロジェクトにおけるベースライン排出量の考え方及びベースライン活動量の算定式を選択して引用記載すること。また、ベースライン活動量については、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) ベースライン排出量の考え方

本方法論におけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後に対象設備に投入される熱量を、バイオ液体燃料ではなく、それまで使用していた化石燃料から得る場合に想定されるCO2排出量とする。

(2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

注) 方法論に算定式の記載がないものについては、本項目の記載は不要とする。

$$Q_{BL,heat,input} = Q_{PJ,heat,input} = F_{PJ,BF} \times HV_{PJ,BF} \quad (\text{式12})$$

記号	定義	単位	想定値
$Q_{BL,heat,input}$	ベースラインの対象設備における使用熱量（投入熱量）	GJ/年	2,580.6
$Q_{PJ,heat,input}$	プロジェクト実施後の対象設備における使用熱量（投入熱量）	GJ/年	2,580.6
$F_{PJ,BF}$	プロジェクト実施後の対象設備における使用熱量（投入熱量）バイオ液体燃料使用量	KL/年	78.2
$HV_{PJ,BF}$	プロジェクト実施後の対象設備で使用するバイオ液体燃料の単位発熱量	GJ/KL	33

A.3.5 ベースライン排出量

注) 方法論の「5. ベースライン排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

$$EM_{BL} = Q_{BL,heat,input} \times CEF_{BL,fuel} \quad (\text{式15})$$

記号	定義	単位	想定値
EM_{BL}	ベースラインの主要排出量	tCO2/年	177.0
$Q_{BL,heat,input}$	プロジェクト実施後の対象設備における使用熱量	GJ/年	2,580.6
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインの対象設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0686

(2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(1)において、算定することとした付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式)

記号	定義	単位	想定値

A.4.1 モニタリング計画

(1) 活動量 (燃料消費量、生成熱量、生産量等)

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	想定値	根拠	
<i>FPJ,BF</i>	プロジェクト実施後の対象設備におけるバイオマス液体燃料使用量	KL/年	B	給油した車両毎に計量機で計測	1回/月	78.2	バイオマス液体燃料化処理設備が導入されてからの期間実績値を年間値に換算して算出	
<i>ELPJ,process</i>	プロジェクト実施後の全てのバイオマス液体燃料化処理における電力使用量	kWh/年	A	電力供給者 (電力会社) からの請求書により、電力使用量を把握	1回/月	57,675	バイオマス液体燃料化処理設備が導入されてからの期間実績値を年間値に換算して算出	九州電力(株)
<i>MC PJ,MeOH</i>	BDFの製造におけるメタノールの使用量	t/年	C	流量計によって計測	1回/月	23.7	バイオマス液体燃料化処理設備が導入されてからの期間実績値を年間値に換算、計測誤差分加算して算出	

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類A・B・Cのいずれかの方法を選択すること。
 分類B (計量器) を用いる場合には、A.4.2において計量器やモニタリングポイントの説明を行うこと。
 分類C (概算等) を用いる場合には、A.4.3において概算・推定方法の詳細について説明すること。

(2) 係数 (単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等)

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	想定値	根拠	
<i>HVPJ, BF</i>	プロジェクト実施後の対象設備で使用するバイオ液体燃料の単位発熱量	GJ/kL	Ⅲ	デフォルト値 (BDF) を使用	1回/年	33.0	デフォルト値	
<i>CEF_{BL, fuel}</i>	ベースラインの対象設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	Ⅲ	デフォルト値 (軽油) を使用	1回/年	0.0686	デフォルト値	
<i>CEF_{electricity, t}</i>	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	Ⅲ	デフォルト値を使用	1回/年	0.00057	デフォルト値	全電源排出係数

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれかの方法を選択すること。
 分類Ⅰ (実測) を用いる場合には、A. 4. 4において実測方法の説明を行うこと。
 分類Ⅱ (第三者提供値) を用いる場合には、提供事業者名を概要欄に記載すること。

A. 4.2 計量器を用いたモニタリング（分類B）に関する説明

注) A. 4.1 (1) においてモニタリング分類B (計量器)を使用する場合の計量器について説明すること。

(1) 計量器の概要

①特定計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	検定の有効期限

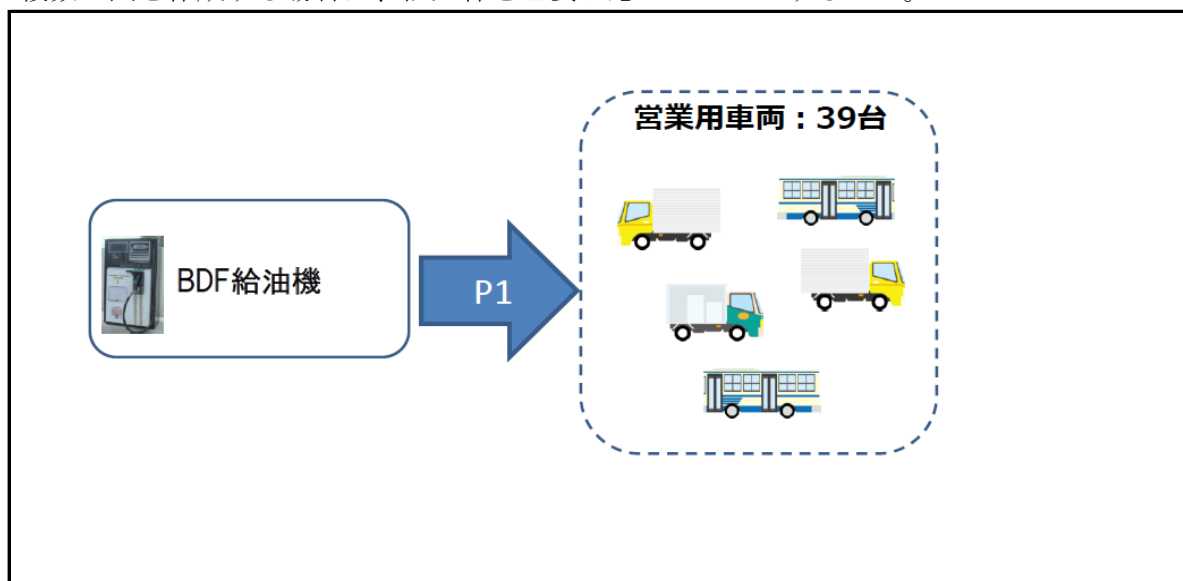
②特定計量器以外の計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	計量器の校正方法の説明
プロジェクト実施後の対象設備におけるバイオマス液体燃料の使用量	燃料油計量器	P1	計量法上の指定製造業者による燃料計量器を使用、基準適合印の有効期間（H31年10月）を超えて使用する場合、メーカーに校正を依頼する。

※1 モニタリングポイントは(2)と整合する番号を記載すること。



(2) モニタリングポイント

注) 計量器によるモニタリングポイントを図示すること。必ずしも個別項目ごとに図を作成する必要はなく、一つの図で全てのモニタリングポイントを示してもよい。複数の図を作成する場合は、記入枠を必要に応じてコピーすること。



A. 4.3 概算等に基づくモニタリング方法（分類C）に関する説明

注) A. 4.1 (1) においてモニタリング分類Cを使用する場合の概算・推定方法の詳細について説明すること。また、計量器による計測値に基づく推定を行う場合には、モニタリングポイントも併せて示すこと。

モニタリング項目	P2：メタノール使用量
<p>(推定・概算方法)</p> <p>計量法に基づいた検定を受けていない容積流量計（㈱オーバルLGL-52A10）を用いてメタノール使用量（投入量）を計測する。</p> <p>仕様書から、流量計の精度±0.5%であるので、保守的に計測値に0.5%加算した値を用いる。</p> <p>(モニタリングポイント)</p> <div data-bbox="544 1160 987 1624"><p>$\begin{array}{c} \text{H} \\ \\ \text{H}-\text{C}-\text{O}-\text{H} \\ \\ \text{H} \end{array}$ メタノールの投入</p><p style="text-align: center;">P2</p><p>BDF製造装置 </p><p>減圧蒸留装置:1台 (α-200-BR-N) </p></div>	

A. 4. 4 係数(単位発熱量、排出係数、効率等)の実測方法に関する説明

注) A. 4. 1において分類 I に該当する方法でモニタリングを実施することとした項目について、実測方法の説明を行うこと。なお、実測の中で活動量の計測が必要となる場合(例えば効率の計測)には、活動量の計測区分(分類A～分類C)に準じた説明を行うこと。

モニタリング項目		